

ALINCO

PS1202
FNFJ-NI

デジタル簡易無線機(総務省技術基準適合品)

AMBE方式　無線機種別コード：3B/3C/3D(免許局)

DR-BU80D

簡易取扱説明書

重要

本製品をご利用になるためには、簡易無線局免許を取得する必要があります。
免許申請手続きをしないで運用されますと不法無線局開設により罰則を受けます。
免許に関することは販売店にご相談ください。

アルインコの製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本書は本製品をお使いになる方向けの簡易ガイドです。本書は運用中、使用者が参照しやすい場所に保管されることをお勧めします。また補足シートや正誤表などが入っている場合は本書とあわせて保管してください。機能の設定をされる無線機管理者の方は詳細説明書をお読みください。右の二次元コードまたは下記ホームページからアクセスしてお読みいただけます。
https://www.alinco.co.jp/

「事業・製品>通信技術>各種ダウンロード>デジタル簡易無線(免許局)>DR-BU80D」

This product is intended for use only in Japan.

アルインコ株式会社　電子事業部

大阪本社 / 電子サービスセンター：
〒541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋4-4-9 淀屋橋ダイビル 13F / TEL 06-7636-2222

無線・電源機器のアフターサービスに関する情報はアルインコ電子事業部HP　https://alinco-denshi.com/「サポート情報」をご覧ください。

使用上のご注意

(必ずお読みください)

- 電波法上のご注意
 - ・本機はデジタル簡易無線免許局です。使用するにはあらかじめ、免許申請が必要になります。
 - ・免許状記載の有効期限が過ぎると、無線局の運用はできません。免許状に関することは販売店にご相談ください。
 - ・他局の通信を妨害したり、傍受した内容を他に漏らしたり、傍受した内容を盗用することは法律で固く禁じられており、違反すると罰せられます。
 - ・本機は日本国の河川湖沼を含む陸上、領海と接続水域、及び排他的経済水域内でお使いになります。上空、海外での使用は違法で罰せられます。
 - ・この無線機は免許を受けた人（免許人）のみ使用できます。貸し出しはできません。
- 航空機内や空港敷地内、無線中継所など無線機器の使用が制限されている場所では指示に従うか、事前に管理者にご相談ください。
- 異なる周波数でも至近距離（10m程度が目安）で同時に無線機を送信すると、お互いに干渉して通話できないなどの障害が起きることがあります。
- 本機を分解、改造したり、本体背面に貼り付けてある証明ラベルをはがして使用することは法律で固く禁じられています。製品保証も対象外となります。
- この無線機は業務連絡専用です。レジャー用途の交信はできません。目的外の通信をすると罰せられます。
- 高温、多湿、直射日光の当たるところ、ほこりの多い場所は避けてお使いください。
- 通信のできる距離は周囲の状況とアンテナによって大きく異なります。本機に採用されている電波は直進性が高く、間に構造物や地形などの障害物があると通信できる距離が短くなります。
- 販売店で事前にプログラミングされている場合、本書に書かれた機能の一部は制限されていることがあります。詳しくは、プログラミングした販売店にお問い合わせください。
- 本機の秘話機能は第三者に通信内容が聞かれる可能性を低くするものであり、無線の性質上、通信の秘匿性を保証するものではありません。
- 海外では法律や周波数の割り当てが異なるため使用できません。
This product is intended for use only in Japan.
- 本機は米国DVS社の開発したAMBE(Advanced Multi-Band Excitation)方式による音声圧縮技術を採用したAMBE+2™を使用した他のデジタル簡易無線(機種コード：3B/3C/3D)との互換性を確保していますが、AMBE+2™以外の音声圧縮技術(RALCWI方式など)を使用したデジタルトランシーバーとの互換性はありません。

The AMBE+2™ voice compression software included in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. The user of this software is explicitly prohibited from attempting to decompile, reverse engineer, or disassemble the object code, or in any other way convert the object code into a human-readable form. US Patent Nos.: #8,595,002, and #8,359,197.

- Warning
This product is a 3B/3C/3D DCR transceiver intended for BUSINESS COMMUNICATIONS among licensees only. This product is permitted to use on land and offshore in Japan, but aviation use is strictly prohibited. A radio operator license is not required but a radio station license is mandatory prior to use. Please follow the instructions of your dealer about license application and operation procedures. Misuse violates the Radio Law of Japan and shall be subject to fine or punishment. This product is NOT a license-free transceiver that can be used for multiple purposes including business, leisure, and hobby communications.

安全上のご注意

- 本機を正しく安全にお使いいただくため、「安全上のご注意」をご使用前にお読みください。使用者や周囲の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、次の内容をよく理解してから本文をお読みください。

	この表示は「人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。
	この表示は「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
	この表示は「人が傷害を負う、または物的損害の発生が想定される内容」を示しています。

- * 重傷とは、けが、やけど、感電、骨折などの傷害で入院や長期通院をしたり、後遺症が残ったりするものを指します。
- * 傷害とは、治療に入院や長期通院の必要がないやけど、けが、感電などを指します。
- * 物的損害とは、家屋、財産、家畜及びペットなどにかかわる拡大損害を指します。

- 免責事項について
下記について法令上の賠償責任が認められた場合を除き、弊社は一切責任を負いません。
- 天災、人災、弊社の責任以外の火災、使用者の違法、故意、過失、取扱説明書の記載を守らないことを含む誤用、その他異常な条件下での使用により生じた事故と損害
- 本機の故障、誤動作、不具合、または停電などの外部要因にて生じる付随的な損害、不利益(通信できなかったことで生じた損失や事業の中断など)
- 本機の保証点検・修理を受ける際に発生する取外し、取付け費用、弊社が関与していない接続機器やソフトウェアとの組合わせによる誤動作などから生じた損害
- 故障や修理のために喪失した個別の設定内容やチャンネルのデータ、表面に施された装飾やカスタマイズ用に使われた製品(ラベル類、圧着端子、ゴム足…)

△危険

●DCケーブル接続の際は、極性を間違えないように十分注意してください。火災・感電・故障の原因となります。赤の配線はプラス（＋）極、黒の配線はマイナス（－）極です。

- この製品の定格電源、電圧は DC13.8V と DC26.4V でいわゆる12V 車と24V 車に自動的に対応します。29V 以上の電圧が掛かると故障、火災、感電の原因となります。12V 以下、15 ～ 23V 程度の電圧だと電源が入らない、定格通りの出力が出ない、などの不具合の原因となります。
- 必ず付属のDCケーブルをお使いください。ケーブルを細くすると火災・感電・故障の原因となります。
- 万が一内部からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けてください。

△警告

■使用環境・条件

- 無線局の免許状の有効期限は5年です。免許状の範囲を超えた運用や免許状を取得しない運用をすると、電波法違反となり、罰せられます。
- ぬれた手で電源ケーブルに触れないでください。感電のおそれがあります。
- 引火性のガスの発生場所では、電源を入れないでください。発火の原因となります。本製品は防爆仕様ではありません。
- アンテナは指定以外の物を使うと罰せられます。必ず販売店の推奨するアンテナをお使いください。
- 使用しなくなる時は必ず無線機販売店にご相談ください。廃局届の提出が必要です。家電製品のように無頓着に廃棄したり、回収業者に譲渡したりすると違法に再利用される等、トラブルのもとになります。
- 周りに花びんなど、液体の入った容器を置かないでください。液体がこぼれて無線機内部に入ると、火災・感電の原因となります。
- 湿度の高い所や、冷たい所から急に温かい所へ移動しますと、製品に露がつく場合があります。露がつくと製品の動作に影響を与え、故障の原因となりますので、乾燥させ、露を取り除いてからご使用ください。
- 長時間の連続送信はしないでください。発熱のため本体の温度が上昇しますので、やけどをしないようご注意ください。運用直後、本体の放熱部に触れないでください。
- 電源ケーブルを折り曲げたり、ねじったり、傷つけたり、加熱したりしないでください。故障の原因となります。
- DCケーブルを加工したり、ヒューズホルダーを取り除いて使用することはしないでください。火災・故障の原因となります。
- 医療機器のある施設に設置するときは電波障害による機器への誤動作が起きないよう充分に配慮して、事前の通話テストを充分に行ってください。
- 内部から漏れた液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- この製品を人命救助などの目的で使用して、万一、故障・誤動作などが原因で人命が失われることがあっても、製造元及び販売店はその責任を負うものではありません。
- この製品を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用した場合、いかなる誤動作・不具合が生じても製造元および販売店はその責任を負うものではありません。

- 指定以外のオプション品や他社のアクセサリ製品を接続しないでください。故障の原因となります。またそれらのアクセサリを使用して起きた不具合は保証期間の有無を問わず有償修理となります。
- 本機の故障、電波環境や使用場所の状況などから通信できなかったことで発生した逸失利益に対する責任は負いかねますのでご了承ください。
- 機種名、数字や記号が書かれたラベル類は、絶対にはがしたり、他のシールなどで隠したり、貼り替えないでください。技術適合の基準から外れ、違法無線機とみなされます。
- また弊社サービスセンターでもこのような個体は修理をお断りしています。ラベルの再発行はできません。

■運転中の無線機の使用について

- 車載型無線機を運転手が走行中に運用する際は、安全運転を最大限優先してください。操作パネルを走行中に注視していると道路交通法違反で罰せられる可能性があります。
- 外部の音が聞こえないような状態にして運転しないでください。外部アンプや、大型スピーカーをつないで周りの音が聞こえないような大音量で受信すると罰せられることがあります。ほとんどの地方自治体では運転中にイヤホン・ヘッドホン類を使用すること自体を規制していますので、ご不明な点は最寄りの警察署などにお尋ねください。
- 本機を自動運転、自動安全装置のある自動車に搭載するときは、送信中にそれらが誤動作しないか安全な場所で確認してからお使いください。車載装置の誤動作による事故の補償は致しかねます。

■本体の取り扱いについて

- ヘッドセットを使用する場合、あらかじめ音量を下げてください。聴力障害の原因になることがあります。
- 本機は調整済みです。ユーザーが改造、仕様変更することは法律で禁止されています。
- 布や布団で覆ったりしないでください。熱がこもり、ケースが変形したり、火災の原因となります。直射日光を避けて風通しの良い状態でご使用ください。
- 車載するときは、濡れたものを収納するトランクスペースなど、水などでぬれやすい場所には設置しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 近く小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電・故障の原因となります。

■異常時の処置について

- 雷が鳴り出したら、安全のため本体の電源を切り、アンテナとDCケーブルを外してご使用をお控えください。本製品は雷に対する保護や保証は致しておりません。
- 以下の場合は、すぐ本体の電源を切って、DCケーブルを抜いてください。異常な状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。修理はお買い上げの販売店にご連絡ください。お客様による修理は、法令により禁止されていますので、絶対にお止めください。
 - 異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがするとき
 - 落としたり、ケースを破損したりしたとき
 - 内部に水や異物が入ったとき
 - DCケーブルが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

△注意

■使用環境・条件

- 電子機器に影響や電波障害を与える場合は使用しないでください。自動車内で使用した場合、車種によりまれに車両電子機器に影響を与えるものがあります。そのような場合は使用しないでください。
- チューナー・テレビなど、他の機器に影響を与えるようなときは、距離を離して設置してください。解決しないときは無線機販売店にご相談ください。
- 電子機器側の電磁波に対する保護が不十分な場合もあります。
- スピーカーなどの帯磁部品は金属製の粉塵を吸着して故障の原因となります。工場内などでは設置場所に配慮してください。微細な金属粉塵は防塵保証の対象外です。
- ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりして故障やけがの原因となることがあります。
- 幼児やペットの手の届くところには置かないでください。けがなど事故の原因となります。
- 磁気カードなどを近づけないでください。無線機に内蔵されている磁石や磁気を帯びた部品で、データが消去される場合があります。
- 直射日光の強いところや炎天下の車など長時間放置しないでください。樹脂製のパネル部品やビニールなどが多用されるマイクなどのアクセサリは熱や日光で劣化しますので特にご注意ください。
- アンテナ端子には 50Ω系の同軸ケーブルを使用して、指定のアンテナを接続してください。同軸ケーブルやアンテナのインピーダンスが異なっていたり、アンテナの調整が不完全なときには、故障や通信不良の原因となります。
- 放熱をよくするため、無線機はできるだけ囲わないように設置してください。
- 雷に対する保護はなされていません。雷が接近している時や、発生が予想される時は屋外につながるアンテナケーブルやDCケーブルを無線機から外してください。雷は直撃以外にもこれらのケーブルに高い電圧がかかり故障を起こす原因になります。
- 車のヒーターの吹き出し口など、温度が高くなる場所には設置しないでください。内部の温度が上がると、ケースや部品が変形・変色したり、火災の原因となることがあります。
- 油煙や湯気が当たるような場所には設置しないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

■トランシーバー本体の取り扱いについて

- 長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず本体の電源を切り、DCケーブルを抜いてください。
- 電源ケーブル、マイクコードは無理に引っばったり引き抜いたりしないでください。故障の原因となります。

■保守・点検

- お手入れの際は、安全のため必ず本体の電源を切り、DCケーブルを抜いてください。
- 汚れた場合は柔らかいきれいな布で乾拭きしてください。
- ベンジン、シンナー、洗剤などの溶剤を使うと外装が変質したり、ショートを誘発して故障するため絶対に使わないでください。パソコンやデジカメのようなAV機器を清掃するために市販されているクリーニング用具が最適です。

防塵・防沫性能について

- 本製品は IP54 相当の防塵・防沫性能がありますが、DCケーブルは防塵・防沫ではありません。また、下記の状態では防塵・防沫となりません。
 - ・背面ゴムキャップが閉じていないとき
 - ・フロントパネルが本体から取り外されているとき
 - ・EMS-97(マイク)が接続されていないとき
 - ・ぬれた手でアンテナ、スピーカーマイクを脱着したとき
 - ・落下などの衝撃でケースなど機構部品が変形、割れなど異常が発生したとき
 - ・海水、砂、泥、薬品など腐食を早めるような異物が無線機に付着したまま放置したときや、薬品、ガス類が空気中に発散している場所に放置したとき完全防水構造ではありませんので水没、流水での洗浄などは絶対におやめください。防塵に使われているゴムキャップなどは経年劣化が生じ、防塵性が失われることがあります。外郭保護についても製品と同じ保証期間ですのでご了承ください。外郭保護が重要な時は有償のメンテナンスを承ります。
- リアパネルに貼られている黒いシールははがしたり別のもので覆ったりしないでください。防水性能を維持できなくなります。

保証と保証書

修理やメンテナンスなど、保証の詳細は販売店との間の契約が優先されますのでご購入時によくご確認ください。弊社の製品保証の内容は弊社発行の保証書に記載されています。保証書には購入店名と購入日の記入押印などがあることを確認して、本書と一緒に大切に保管してください。記載がないときは販売店発行のレシート、納品書など購入店と購入日が証明できる書類と一緒に保存してください。購入店と購入日が証明できない場合は製品保証が無効となりますのでご注意ください。

製造終了製品に対する保守期限について

弊社では製造終了後も下記の期間、製品をお使い頂けるように最低限必要な補修用部品を常備しています。ただし不測・不可抗力の事態により在庫部品に異常が発生したような場合はアフターサービスをご提供できないこともありますので、あらかじめご了承ください。本製品には明確に定められた製品寿命はありません。

補修部品の保有期間は、生産終了後5年です

操作する前にお読みください

■タイムアウトタイマー(送信時間制限)

1回の通信で連続して送信できる時間は、「5分以内」と電波法で定められています。時間を超えるると強制的に送信が停止し、そのあと1分間は送信できなくなります。Aさんが5分間話し続けるだけでなく、AさんとBさんが間を置かずにはきばき通話しているのも1回の通信とみなされます。応答するまでに3秒以上の間を取るとタイマーはリセットされます。初期設定では3分経つと残り時間が表示され、時間制限の30秒前にビビビ、5秒前にピー音で警告します。

■通信の互換性について

本機の音声のデジタル化技術(コーデック)はAMBE+2™方式です。他社のデジタル簡易無線免許局ともチャンネルを合わせれば基本の音声通話はできますが、メーカー独自の通話機能には対応しないことがあります。お手持ちの他社製免許局と混用するときは前もって販売店にご相談ください。

■通信距離について

- 本機の通話距離は、お使いになるアンテナの性能と設置条件で決まります。
- 【目安】
- ・標準的なホイップアンテナを使った車載局同士：平地で 4 ～ 5km
- ・高性能な無指向性アンテナを、周りにビルなどが無い開けた場所で 20m程度の高さに設置した固定局同士：10km またはそれ以上
- ・船舶同士：海上は見通しが良いため陸上の車載局同士よりも一般的には有利ですが、波がアンテナの揺れの原因となって電波伝搬が安定しないことがあります。固定局では有利になる長いエレメントのアンテナより、利得が低くても短いアンテナのほうが揺れが少なく通信が安定することもあります。

アンテナにつく同軸ケーブルやコネクタは、長く配線するほどロスが低い上質なものを使わないと信号が減衰して正しく送受信できず、通話距離が極端に短くなるか、通話できなくなることがあります。周辺機器の選定は無線機販売店にご相談ください。

付属品一覧

本製品には以下のものが付属しています。ご使用前に確認してください。

☐ 本体

☐ モービルブラケット ADBM80

☐ スピーカーマイク EMS-97

☐ DCケーブル UA0114

☐ モービルブラケット取付用ネジセット

- ネジ(M5×12)×4

- タッピングネジ(M5×20)×4
- 六角ナット(M5)×4
- スプリングワッシャー×4
- 平ワッシャー×4

☐ マイクハンガー

☐ マイクハンガー取付用ネジ×2 (タップタイトネジM3×8mm)

☐ 簡易取扱説明書(本書)

☐ 保証書

注意

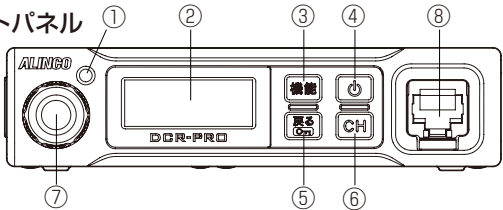
●設置や取り付けに使用するネジは、付属または指定のものをお使いください。長すぎると機器内部のショート、短すぎると取付け不安定となり、落下して故障の原因となります。

三和ラファムサービス株式会社

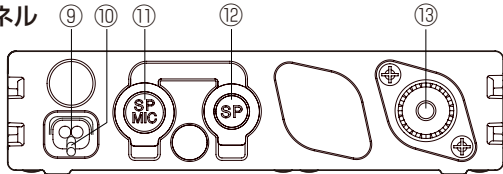
〒230-0854 横浜県あじית大田区大田東町2-471 稲倉ビル3F
TEL 045-652-2211 FAX 045-652-2213

各部の名称と機能

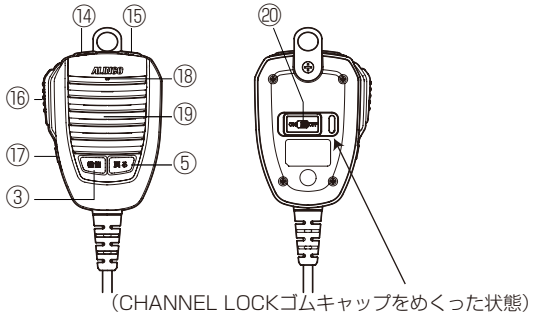
■フロントパネル



■リアパネル

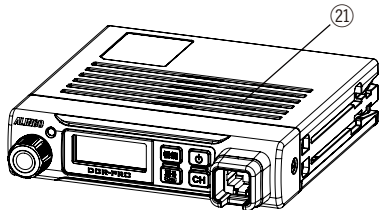


■スピーカーマイク(EMS-97)



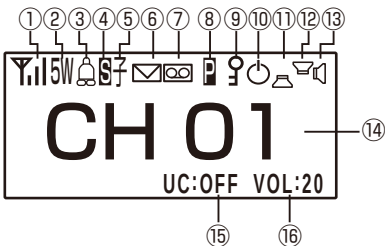
(CHANNEL LOCKゴムキャップをめくった状態)

■本体上部



19	スピーカー(EMS-97)	スピーカー出力の設定をEMS-97にしたときに音声が入ります。
20	ロックスイッチ	ONで誤操作防止のためUP/DOWNキーをロックできます。
21	本体スピーカー	設置時、スピーカーを塞がないように配慮してください。

■ディスプレイ表示

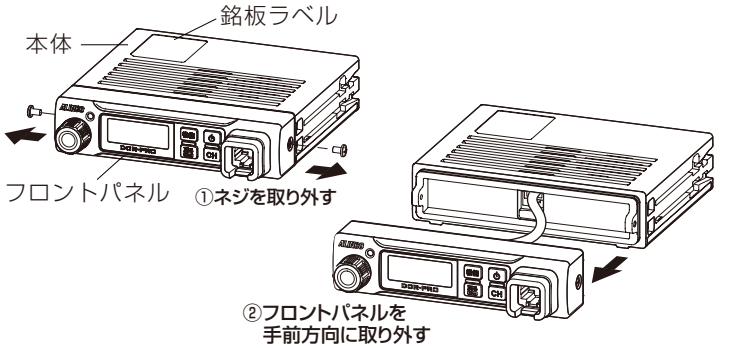


説明		
①	Y	受信した信号の強さに応じて四段階に点灯します。送信時には送信マークになります。
②	5W	送信出力レベルを表示します。
③		ベル機能設定時に点灯します。
④	S	秘話通信設定時に点灯します。
⑤	子	子機間通話禁止機能で子機設定時に点灯します。
⑥	✉	未読のショートメッセージがある場合に点灯します。
⑦	📄	未聴の録音データがある場合に点灯します。
⑧	P	プライベートチャンネル機能動作時に点灯します。
⑨	🔒	キーロック動作時に点灯します。
⑩	🔌	オートパワーオフ機能設定時に点灯します。
⑪	👤	前面SP / MICコネクタに接続するスピーカーを有効に設定したときに点灯します。
⑫	👤	背面SP/MICコネクタ(4極)に接続するスピーカーを有効に設定したときに点灯します。
⑬	🔊	本体スピーカーを有効に設定したときに点灯します。
⑭	CH 01	送信・受信チャンネル番号(周波数)や各設定内容を表示します。
⑮	UC:OFF	ユーザーコードや自局 ID、グループを表示します。
⑯	VOL:20	現在の音量を表示します。

■フロントパネルについて

本体は、上下どちらを向いても良いようにセットできます。銘板ラベルの貼ってある面になるべく外気が当たるように設置してください。取外し、取付けにはプラスドライバーが必要です。取外し方は、下図を参照ください。

※取付けは取外しと逆の手順で行います。
※銘板ラベルにある二次元コードは、弊社HPIにある取扱説明書のリンクです。



■モバイルブラケットの取付け

モバイルブラケットは、付属のワッシャーとスプリングワッシャー、タッピングネジで取り付けます。
本体側面の溝とブラケット下部を合わせ、カチッと音がするまでスライドして取り付けます。取り外すときは、ブラケットのレバーを上方向に押し上げながら本体を引き抜くようにスライドします。

注意 弊社の製品保証には、取付けや取外しに掛かる費用は含まれていません。不具合が起こり、製品を取り外して再度取り付ける際に費用が発生しても、保証の有無に関わらず弊社ではその費用の負担は致しかねます。

■外部電源コントロール機能

自動車の「イグニッション」キーと連動して無線機の電源をオン・オフする機能です。詳しくは詳細説明書を参照ください。

■キーの押し方

正しく押さないとう動作をします。

- 本書の説明でキーを「押します」とは、押した後すぐに指を離すことを指します。
- 「長く押す」「長押しする」とは機能が動作するまで押し続けることを指します。

電源のオンオフ/音量・CH番号の設定

■電源のオンオフ

[電源]キーを長押しすると電源が入ります。電源を切るときも同じ操作をします。

■音量の調整

音量調節範囲は0～42までの43段階です。ダイヤルを回して適切な音量に調整してください。設定した音量は待受画面右下に表示されます。

■チャンネル番号の設定

待受画面で[CH]キーを押して、チャンネル番号(以下CH)が点滅中にダイヤルを回してCHを選びます。選択後、再度[CH]キーを押して確定します。待受状態でマイクの[UP]/[DOWN]キーを操作してCHを変更することもできます。

通話する

■受信する

信号を受信すると、インジケータが緑色に点灯し、信号の強さに応じてディスプレイにアンテナアイコンが表示されます。信号の強さやユーザーコードなど条件を満たすと音声が入ります。個別通信のときは相手局の個別IDが表示されます。

LED照明、IH調理器具、ソーラー発電装置、DC/ACインバーターなどインバーターやコンバーターを内蔵する装置の近くではノイズの影響を受けて受信しにくくなることがあります。設置場所に留意してください。

■送信する

マイクの[PTT]キーを押すと、インジケータが赤色に点灯して送信します。[PTT]キーを押したままマイクと口元を5cmほど離して、通常の声量で話します。[PTT]キーを離すと待ち受けに戻ります。デジタル無線の性質上、[PTT]キーを押してすぐ話し出すと初めの言葉に「頭切れ」が起こりますので、一呼吸置いてから話すように心掛けてください。
マイク部分を手で覆ったりステッカーを貼ったりすると声を拾いません。

重要 ●マイクに向かって話すとき、声が大きすぎたり口元が近すぎたりすると、送信音が歪み(ひずみ)ますのでご注意ください。
●他に通信する無線局がないことを確認してから送信してください。(インジケータが緑色に点灯していないこと)

キーロック

誤操作でCHや設定が変わってしまうことを防げます。待受画面で[戻る]キーを長押しするとディスプレイに「🔒」が点灯します。キーロック中は[PTT]キー、短縮動作の一部、「緊急通報機能」、電源の入/切、音量設定のみが操作可能です。もう一度[戻る]キーを長押しして「🔒」を消すと解除されます。

重要 あらかじめ各設定がプログラミングされているときは、手動では変更できないことがあります。

故障とお考えになる前に

「故障かな？」と思われたら、まず以下の「処置」をお読みください。マイクやケーブルが原因の不具合も有りますので、必ずアクセサリも点検してください。

症状	原因	処置
電源を入れてもディスプレイに何も表示されない	電源・DCケーブルの不良 電源の逆接続 ヒューズ切断	接続、ケーブル、ヒューズを点検する 電源ケーブルの赤色側を(+)に黒色側を(-)に接続する ヒューズが切れた原因を除いたあと、指定容量のヒューズと交換する
ディスプレイの表示が異常になっている	CPUの誤作動	リセットする。DCケーブルを一旦抜いて再度接続する
スピーカーから音が出ない/受信できない/「ギャラギャラ」音が聞こえる	音量が低すぎる 音量設定値が不適切 送信状態になっている 各種動作設定のスピーカー出力設定が不適切 秘話コードが一致していない	適切な音量にレベルを変える [PTT]キーを操作して受信状態にする 設定の見直しを行う 販売店に相談する
送信できない/送信しても応答がない	[PTT]キーが確実に押されていない チャンネルや通信設定が間違っている 送信設定の送信出力が「受信のみ」になっている	[PTT]キーを押して、インジケータを赤く点灯させる 相手局と通信可能なチャンネル、設定に合わせる 送信出力を「1W」、「2W」、「5W」にする
受信性能が悪くなった	アッテネーターが入っている	アッテネーターをオフにする
チャンネルが切り替わらない	設定がロックされている	販売店に相談する
キーによる操作ができない	キーロックが設定されている	[戻る]キーを長押しし、キーロックの設定を解除する

リセット

電源を切り、本体の[機能]キーと[戻る]キーを一緒に押しながら電源を入れます。「RESET」が表示されたら[機能]キーを押します。拡張セットモードを含む全ての設定が初期化されます。

重要 あらかじめ各設定がプログラミングされているときは、リセットできないことがあります。

オプション(抜粋)

□EMS-100 ロングケーブルスピーカーマイク(ねじ込み式・5mストレートケーブル)
□EDS-48 5mセパレートキット(ブラケット・ネジ・5mケーブル)

※本書に記載されているオプションは一部です。他のオプションについては詳細説明書を参照ください。

定格

■一般仕様

送受信周波数[MHz]	467.000000～467.400000(CH1～CH65) 465.096875～465.153125(CH66～CH75)
中継通話用周波数[MHz]	送信:465.034375～465.090625 (CH D1～受信:468.796875～468.853125 CH D10)
電波型式	F1D F1E
アンテナインピーダンス	50 Ω
定格電圧	13.8V ± 10%または、26.4V ± 10%
消費電流 (電源:13.8V運用時 アンテナ:50Ω終端接続時)	1.5A以下(5W送信時)/1.0A以下(2W送信時)/0.8A以下(1W送信時)/800mA以下(受信時)/400mA以下(待受時)/15mA以下(電源OFF時)/5mA以下(ACCケーブルにて電源OFF時)
外形寸法 W×H×D	125.0×30.0×120.0mm (本体突起物除く)
質量 (EMS-97装着時)	約 770g
使用温度範囲	－ 20℃～＋ 60℃

■送信部

送信出力	5W/2W/1W(偏差: + 20%、－50%) (免許状に準じて設定が異なります。)
変調方式	4 値 FSK
周波数偏差	± 1.0ppm
占有周波数帯域幅	5.8kHz 以下
最大周波数偏移	± 1324Hz 以内
スプリアス発射強度	2.5uW 以下

■受信部

受信感度	－ 3dBuVemf 以下 (BER1 × 10 ⁻⁹)
受信方式	ダブルスーパーヘテロダイナ
低周波出力 (最大時)	3W 以上 (本体 / 外部スピーカー (8Ω負荷)) 800mW 以上 (EMS-97/EMS-100)

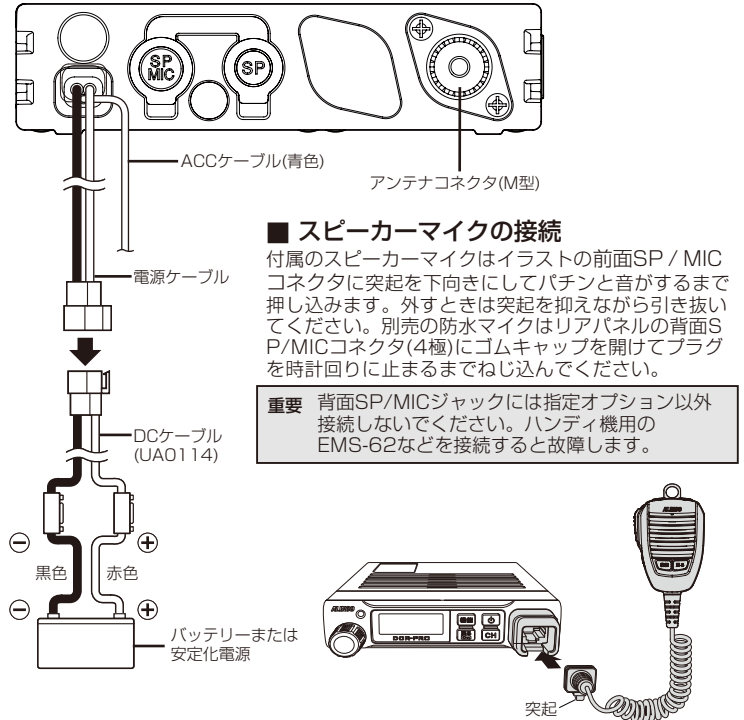
- 仕様、定格は予告なく変更することがあります。
- 本書の説明用イラストは実物と実態や形状が異なったり、一部の商品を表示している場合があります。
- 本書の内容を無断転載することは禁止されています。
- 乱丁、落丁はお取り替えいたします。

注意 ●拡声器モードを「拡声器のみ」または「拡声器+送信」に設定しているときは①～③のアイコンは黒色で表示します。

電源の接続と設置方法

■電源・アンテナの接続

- 電源は車のバッテリー(12/24V)に、直接付属のDCケーブル(UA0114)を接続し本機の電源ケーブルとDCケーブル(UA0114)を接続してください。
- リアパネル右のアンテナコネクタにアンテナの同軸ケーブルを接続します。本機のアンテナコネクタは汎用性が高く、使いやすいインチ・ミリ両用(M/PL)タイプを採用しています。専用のものに比べて嵌め合いに遊びが多く感じられますが、異常ではありません。



■スピーカーマイクの接続

付属のスピーカーマイクはイラストの前面SP / MICコネクタに突起を下向きにしてパチンと音がするまで押し込みます。外すときは突起を抑えながら引き抜いてください。別売の防水マイクはリアパネルの背面SP/MICコネクタ(4極)にゴムキャップを開けてプラグを時計回りに止まるまでねじ込んでください。

重要 背面SP/MICジャックには指定オプション以外接続しないでください。ハンディ機用のEMS-62などを接続すると故障します。